資料－７

第７回平取ダム地域
文化保全対策検討会
平成 20 年 10 月 25 日

動物の保全対策について（案）

平取ダム事業用地周辺におけるアイヌの伝統文化に関わる動物の保全対策について、具体的な保全対策を整理するにあたり、以下のようなことに留意することが必要と考えられる。

○ 動物に関わる保全対象は、「アイヌ文化環境保全対策調査総括報告書」を基本として選定する。

○ 主に、ほ乳類、中でもアイヌ文化に関連する大型のキムンカムイ（ヒグマ）とユク（エゾシカ）のことを中心に、併せて鳥類についても保全対象としてとらえる。

○ 平取ダム事業用地および周辺地域にはヒグマやエゾシカがかつてから多く生息していたことから、イウㄊ（狩場）とされていた。現在も多くの痕跡が確認されている。生態系における位置からしてヒグマやエゾシカが生息できる環境があるということは、おおむね他の生物にとっても適した条件があるものと考えられることから、現在の生息環境を維持し、さらに質を高めていくことが必要である。

○ また、平取ダム事業用地および周辺地域には国指定天然記念物、絶滅危惧種などの稀少猛禽類の飛翔と営巣が確認されている。アイヌ語ではクマタカをシチカプと呼び、額平川右岸にはクマタカのいる沢という地名がある。このような鳥類の存在と、その生態が地名に反映したり、物語や歌に登場したり、踊りに表現されたりとその結びつきは強く多岐にわたっていることから、それらの生息環境の維持・向上を図るとともに、アイヌ文化とのつながりを伝える口承文芸や伝統舞踊の継承に一層取り組んでいくことが重要と考えられる。

○ さらに、ヒグマやエゾシカについても、同様に口承文芸などによりアイヌ文化とのつながりを伝承していくとともに、ヒグマの餌資源を豊富にするような多様な森林環境を再生・復元していくことが考えられ、それらのことは小動物の生息にとっても好条件と考えられる。